



## 2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月6日

上場会社名 株式会社JMS

上場取引所 東

コード番号 7702 URL <http://www.jms.cc/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 奥窪 宏章

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理本部長

(氏名) 遠藤 正樹

四半期報告書提出予定日 2020年2月12日

TEL 082-243-5844

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	43,552	△1.6	1,497	8.9	1,720	21.3	1,176	20.0
2019年3月期第3四半期	44,251	5.4	1,374	150.6	1,419	99.0	980	96.9

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 900百万円 (56.2%) 2019年3月期第3四半期 576百万円 (△54.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	48.26	—
2019年3月期第3四半期	40.22	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	68,355	32,451	47.3
2019年3月期	67,320	31,900	47.2

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 32,314百万円 2019年3月期 31,765百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
2020年3月期	—	8.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,000	3.3	1,800	23.1	2,000	31.6	1,400	20.7	57.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期3Q	24,733,466 株	2019年3月期	24,733,466 株
2020年3月期3Q	348,775 株	2019年3月期	356,549 株
2020年3月期3Q	24,381,180 株	2019年3月期3Q	24,372,593 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「かけがえない生命のために」の創業精神の下、「医療を必要とする人と支える人の架け橋となり、健康でより豊かな生活に貢献することですべての人々を笑顔にする」ことを目指して、経営の品質と企業価値の向上に努めております。事業活動としましては、ホスピタルプロダクツ ビジネスユニットでは輸液・栄養領域を、サージカル&セラピー ビジネスユニットでは透析領域及び外科治療領域を、ブラッドマネジメント&セルセラピー ビジネスユニットでは血液・細胞領域を中心にそれぞれ事業を展開し、製品の開発、生産、販売を進めております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、円高による円貨換算額減少の影響もあり、前年同四半期に比べ6億98百万円減少の435億52百万円（前年同四半期比1.6%減）となりました。利益につきましては、労務費の低減や研究開発費の発生が落ち着いたことから、営業利益は14億97百万円（前年同四半期比8.9%増）となりました。また、持分法による投資利益の計上などにより、経常利益は17億20百万円（前年同四半期比21.3%増）となり、税金費用等を差し引いた結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は11億76百万円（前年同四半期比20.0%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

## (日本)

血液バッグや薬剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」の販売が増加したものの、血液透析装置の販売が減少したため、売上高は309億21百万円（前年同四半期比3.2%減）となりました。また、セグメント利益については、減収影響はあるものの、研究開発費の減少に加え、子会社からの受取配当金の増加により、7億15百万円（前年同四半期比38.0%増）となりました。

## (シンガポール)

北米向けの成分献血用回路やアフリカ向けの血液バッグの販売が増加したため、売上高は152億42百万円（前年同四半期比1.0%増）となりました。また、セグメント利益については、労務費の低減に加え、増収効果により、10億62百万円（前年同四半期比17.8%増）となりました。

## (中国)

AVF針（血液透析用針）の販売が増加したものの、フィリピンへの生産移管により日本向けの輸液セットの販売が減少したため、売上高は20億60百万円（前年同四半期比12.6%減）となりました。また、セグメント利益については、減収影響はあるものの、労務費や経費の低減に努めたことにより、52百万円（前年同四半期比33.6%増）となりました。

## (フィリピン)

日本向けの輸液セットの販売が増加したため、売上高は19億57百万円（前年同四半期比55.7%増）となりました。また、セグメント損益については、増収効果により、前年同四半期に比べ3億27百万円改善の26百万円の損失となりました。

## (ドイツ)

血液バッグの販売が増加したため、売上高は23億16百万円（前年同四半期比0.8%増）となりました。また、セグメント利益については、為替による外貨建ての仕入取引にかかる原価の増加により、1億76百万円（前年同四半期比26.1%減）となりました。

## (その他)

売上高は38億16百万円（前年同四半期比4.9%増）、セグメント利益は87百万円（前年同四半期比25.2%減）となりました。

なお、上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ10億34百万円増加の683億55百万円となりました。資産、負債及び純資産の内容は次のとおりであります。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ6億26百万円増加の383億75百万円となりました。この主な要因は、受取手形及び売掛金が増加したためであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ4億7百万円増加の299億79百万円となりました。この主な要因は、使用権資産が増加したためであります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2億24百万円増加の228億87百万円となりました。この主な要因は、短期借入金が増加したためであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ2億59百万円増加の130億16百万円となりました。この主な要因は、リース債務が増加したためであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ5億51百万円増加の324億51百万円となりました。この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したためであります。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.1ポイント上昇の47.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

経営環境には依然として不透明さが残るものの、現時点におきましては、概ね予想通り推移していることから、2020年3月期通期の連結業績予想について、2019年5月10日公表時から変更しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,081	6,217
受取手形及び売掛金	15,846	16,652
有価証券	149	212
商品及び製品	7,777	7,754
仕掛品	2,433	3,013
原材料及び貯蔵品	3,624	3,718
その他	867	837
貸倒引当金	△32	△30
流動資産合計	37,748	38,375
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,413	8,509
機械装置及び運搬具（純額）	7,643	7,943
その他（純額）	7,356	7,981
有形固定資産合計	23,413	24,435
無形固定資産	503	499
投資その他の資産		
投資その他の資産	5,665	5,055
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	5,654	5,044
固定資産合計	29,571	29,979
資産合計	67,320	68,355

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,808	8,990
短期借入金	4,220	4,548
1年内返済予定の長期借入金	3,483	3,415
未払法人税等	379	425
賞与引当金	1,075	604
その他	4,695	4,903
流動負債合計	22,663	22,887
固定負債		
長期借入金	10,626	10,640
役員退職慰労引当金	106	104
退職給付に係る負債	775	802
資産除去債務	141	141
その他	1,107	1,327
固定負債合計	12,756	13,016
負債合計	35,420	35,903
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,411	7,411
資本剰余金	10,362	10,362
利益剰余金	14,323	15,149
自己株式	△276	△270
株主資本合計	31,821	32,653
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	297	403
為替換算調整勘定	△353	△741
その他の包括利益累計額合計	△56	△338
非支配株主持分	135	137
純資産合計	31,900	32,451
負債純資産合計	67,320	68,355

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	44,251	43,552
売上原価	32,714	31,978
売上総利益	11,536	11,574
販売費及び一般管理費	10,161	10,077
営業利益	1,374	1,497
営業外収益		
受取利息	10	13
受取配当金	39	42
持分法による投資利益	267	236
その他	107	168
営業外収益合計	425	460
営業外費用		
支払利息	140	147
為替差損	125	66
たな卸資産廃棄損	86	—
その他	28	22
営業外費用合計	381	236
経常利益	1,419	1,720
特別利益		
固定資産売却益	6	69
特別利益合計	6	69
特別損失		
固定資産売却損	1	2
固定資産廃棄損	33	16
投資有価証券評価損	—	65
役員退職慰労金	—	41
特別損失合計	34	124
税金等調整前四半期純利益	1,390	1,665
法人税、住民税及び事業税	364	407
法人税等調整額	42	75
法人税等合計	407	483
四半期純利益	983	1,182
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	5
親会社株主に帰属する四半期純利益	980	1,176



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	983	1,182
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△264	106
為替換算調整勘定	△143	△388
その他の包括利益合計	△407	△282
四半期包括利益	576	900
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	573	898
非支配株主に係る四半期包括利益	2	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(在外連結子会社におけるIFRS第16号「リース」の適用)

国際財務報告基準を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。

これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従って、リース債務は、適用開始日現在の借手の追加借入利率を用いて割り引いた現在価値で測定しており、使用権資産はリース債務と同額を計上する方法を採用しております。また、流動資産の「その他」、「無形固定資産」、「投資その他の資産」に含めていた一部の資産については使用権資産への振替を行っております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の資産においては、有形固定資産の「その他(純額)」が11億13百万円、流動負債の「その他」が97百万円、固定負債の「その他」が2億98百万円それぞれ増加し、流動資産の「その他」が15百万円、「無形固定資産」が24百万円、「投資その他の資産」が6億80百万円それぞれ減少しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(在外連結子会社におけるASU第2014-09号「顧客との契約から生じる収益」の適用)

米国会計基準を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間より、ASU第2014-09号「顧客との契約から生じる収益」を適用しております。

これにより、約束した財又はサービスが顧客に移転された時点で、当該財又はサービスと交換に権利を得ると見込む対価を反映した金額で、収益を認識することが求められており、適用にあたっては遡及修正による累積的影響額を適用開始日時点で認識する方法に従っております。

なお、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)2	合計
	日本	シンガ ポール (注)1	中国	フィリ ピン	ドイツ	計		
売上高								
外部顧客への売上高	29,639	7,565	1,111	—	2,296	40,613	3,637	44,251
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,307	7,533	1,245	1,257	0	12,343	—	12,343
計	31,946	15,098	2,357	1,257	2,297	52,957	3,637	56,595
セグメント利益又は損失(△)	518	901	39	△354	238	1,343	116	1,460

(注) 1 「シンガポール」の区分は、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでおります。

2 「その他」の区分は、国内子会社及びアメリカ、韓国の現地法人の事業活動を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,343
「その他」の区分の利益又は損失(△)	116
セグメント間取引消去	△306
持分法投資利益又は損失(△)	267
その他の調整額	△1
四半期連結損益計算書の経常利益	1,419

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 2	合計
	日本	シンガ ポール (注) 1	中国	フィリ ピン	ドイツ	計		
売上高								
外部顧客への売上高	28,402	7,928	1,086	2	2,315	39,736	3,816	43,552
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,519	7,313	974	1,955	0	12,763	—	12,763
計	30,921	15,242	2,060	1,957	2,316	52,499	3,816	56,316
セグメント利益又は損失(△)	715	1,062	52	△26	176	1,979	87	2,066

(注) 1 「シンガポール」の区分は、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでおります。

2 「その他」の区分は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,979
「その他」の区分の利益又は損失(△)	87
セグメント間取引消去	△565
持分法投資利益又は損失(△)	235
その他の調整額	△15
四半期連結損益計算書の経常利益	1,720

3 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「ドイツ」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度に開示した第3四半期連結累計期間に係る報告セグメントとの間に相違が見られます。